二人あるみるぐの山駿を迎出てくとしけるを陸奥国
物へて物へ汝ら犯せる婦ら許へよ出てる袋を
とて二人共に新新して家へ入うんば二人切て出づ
る寄母に成て立て二尺餘の白ばあるけるを佩長
刀等を物へて待機をるる計まて母寄者なく
殺々脇と逃げもるを追ひ七八人切て捨て大音
に叫て呼ぶ近きものら用ることよ来うん者は
音をもゆる城所ナ郎の息女日吉の高の乳母を安部
宗兵衛尉是基が自害する形勢に見きて捨て捨て
とて太刀を抜き逆手に成て腹切る様に拵て
中を引き通り雲の霧の如く消て谷間を隔て沖山方
へ逃へらけるを之をふ知らず者共追ひ迫て恐
まて近づき得ず焼殺すると為計ると大息はて
寄戻ける其後夜半に成ければ松明を焼き九
郎方ら父ら深母を負ひけまば後法を立来りしぐ
山路をたてちて如て鐘踏法を立て山へのてまば
して足よ拭言の内陸奥不法を本知しける程に
是情を聞て此行と尋あまぐ其行方なるら